



にっしいアグリインフォメーション

にっしいアグリインフォメーションはJA兵庫西管内の担い手農家の皆様を対象として有益な営農情報を提供して参ります。

VOL.4
令和3年1月発行

JA兵庫西



発行元：JA兵庫西 営農販売企画課

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、

家族お揃いで輝かしい新年をお迎えになったことと存じます。

令和2年は新型コロナ禍の影響を大きく受け、

私たちの生活様式は大きく変化しました。

令和3年についても、引き続き新型コロナ禍と向き合った

生活が続くと予想されますので、手洗いの励行・マスク着用など

万全な感染予防対策の実施をお願いします。

本年もJA兵庫西をよろしく願い致します。



令和2年産米の販売方針

1 経緯

JA兵庫西の主要農産物である米について、令和2年産は新型コロナ禍の影響で、主に業務用米において需要が大きく低迷したことから、仮渡金を大きく下げることとなりました。

そこで、令和2年産米はJAが直接消費者へ販売する事で得られるメリットを仮渡金に加え、さらに、生産者の経営支援としてJA兵庫西へ出荷頂いたうるち米に対して独自の特別支援を実施し生産者の手取りが最大になるよう設定しました。(詳細は、「にっしいアグリインフォメーション Vol.3(10月号)」および広報誌「にっしいひろば10月号」をご参照ください)

このような状況から、米を生産する組合員皆様の生産意欲と経営状況の改善を目的として、営農生活センター、旬彩蔵・野菜市、支店が連携し、米の販売拡大に取り組みます。

2 取組内容

- 1 全農委託販売とは別に、JA直販米として50,000袋(30kg)の販売に取り組みます。
- 2 営農生活センターと支店が連携して、米の年間予約販売に注力し、取扱い数量の拡大に努めます。
- 3 旬彩蔵・野菜市では、JA兵庫西ブランド米「にっしいライス輝」(5kg精米)の販売に加え、新たに玄米10kg規格の販売を開始し、より消費者に買い求めやすい規格での販売を開始します。

以上の取り組みにより、生産者の皆様から出荷頂いたお米の有利販売に取組み、最終精算時に更なる精算額の増大を目指します!

令和2年産米の反省と令和3年産米に向けて

1 令和2年産米作況指数とその要因について

農林水産省公表によると、10月15日現在の作況指数は、兵庫県南部「95」で「やや不良」とされています。大きな要因として以下の3点があります。

- 1 出穂後の高夜温の影響による白未熟粒の発生
- 2 南部地域を中心にスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による食害
- 3 9月中旬以降に発生が広がったトビイロウンカ(秋ウンカ)による坪枯れ、倒伏等の被害や被害拡大回避のための早刈り等による登熟不良



トビイロウンカ

2 トビイロウンカ(秋ウンカ)による被害について

令和元年度に引き続き、今年度も広い地域で発生し、収穫を間近に控えた水田でイネの枯死が広がりました。トビイロウンカは、6月下旬から7月頃に梅雨前線に沿って吹き込む風に乗って大陸から飛来します。年によっては異常飛来することがあり、その際は甚大な被害をもたらすことがあります。



飛来後は水田で3~4世代増殖を繰り返しつつ、イネを吸汁加害します。そして収穫期に坪枯れ、全面枯れなどの被害を起こします。

3 トビイロウンカ(秋ウンカ)防除対策について

長期残効型箱施用剤の効果が高く、近年発売された新規有効成分「ピラキサルト」などを含む箱施用剤がおすすめです。(薬剤名「ブーンゼクテラ箱粒剤」など:令和3年産用 水稻資材申込書に掲載)

本田で防除する場合は、7月下旬~8月上旬が適期ですが、箱施用剤の効果により要防除密度(※)以下であれば、特に防除する必要はありません。しかし、年によっては飛来量が多い場合がありますので、同時期のほ場観察が大切です。



秋ウンカの発生後、防除を行う際には、薬剤が株元に到達しないと十分な効果が得られないことがありますので、薬剤の選定と散布方法には配慮が必要です。粒剤を使用する場合は、散布後の湛水状態を数日間保つ、粉剤・液剤は株元にかかるように散布するよう留意して下さい。

また、収穫期に近いタイミングでの薬剤散布になる可能性があるため、使用薬剤の使用時期及び使用回数をよく確認しましょう。

※参考【トビイロウンカ要防除密度の目安】

	時期	密度の目安
1	収穫まで2ヵ月以上の場合 (7月下旬~8月上旬)	成・幼虫の密度が 100株当たり20頭以上
2	収穫まで1.5ヵ月以上の場合 (8月上旬~中旬)	短翅型雌成虫の密度が 100株当たり30頭以上
3	収穫まで1ヵ月以上の場合 (8月下旬~9月上旬)	成・幼虫の密度が 1株当たり2頭以上
4	いつでも(時期不問)	成・幼虫の密度が 1株当たり5頭以上

令和2年度 農産物直売所「旬彩蔵・野菜市」上半期の振り返り

令和2年度上半期は新型コロナ禍の影響で外食が減少し、家庭で消費する内食の機会が増える傾向となりました。このような情勢により、直売所「旬彩蔵・野菜市」の実績も令和元年度を上回りました。

〈直売所「旬彩蔵・野菜市」上半期実績〉

	令和元年度	令和2年度	増減	前年対比
売上金額(千円)	1,032,338	1,185,059	152,721	114.8%
売上点数(千点)	4,719	5,216	497	110.5%
来店客数(人)	819,492	895,627	76,135	109.3%

※対象期間：各年度とも4月～9月末



売り場の状況については、6月後半から7月後半にかけて起きた日照不足と長雨の影響を受け、なす・きゅうり等定番の夏野菜が不足しました。

今後も新型コロナ禍を意識した新たな生活様式が継続することで、「旬彩蔵」への来客は高い水準で維持されると考えられます。こうした背景を踏まえ、生産者である皆様のお力で出荷量を増やし、売り場を盛り上げて頂きたいと思っております。以下に「令和2年度上半期 旬彩蔵・野菜市で不足した農産物」をご紹介しますので、今後の出荷計画にご活用ください。

令和2年度上半期 旬彩蔵・野菜市で不足した農産物

数量単位：袋、個、玉

TOP	農産物名	4月数量	5月数量	6月数量	7月数量	8月数量	9月数量	数量計	金額(千円)	平均単価(円)
1	にんじん	14,790	6,337	1,142	4,618	13,215	10,266	50,368	7,152	142.1
2	しょうが	3,875	3,604	3,449	5,056	4,557	3,320	23,861	4,225	177.3
3	じゃがいも(メークイン)	10,252	8,460	349	184	1,963	1,848	23,056	3,952	171.6
4	きゅうり	9,074	6,208	538	95	1,500	4,133	21,548	3,244	150.6
5	ごぼう	4,321	3,794	2,911	2,201	2,548	3,346	19,121	3,720	194.7
6	ピーマン	3,949	4,798	4,059	184	8	64	13,062	2,053	157.1
7	トマト	742	702	530	211	4,239	6,108	12,532	4,462	356.4
8	大根	1,371	1,175	383	1,913	3,359	3,080	11,281	2,116	188.1
9	キャベツ	1,134	1,165	32	486	2,196	5,130	10,143	2,949	291.4
10	さつまいも	1,342	1,761	2,313	1,787	1,911	563	9,677	2,404	248.5
11	レタス	839	252	2,005	1,860	674	2,607	8,237	1,542	187.8
12	ブロッコリー	1,792	828	650	2,399	1,603	771	8,043	2,103	261.5
13	スイートコーン	1	236	2,073	772	3,071	1,269	7,422	2,452	330.3
14	なす	30	3,562	3,087	51	515	0	7,245	1,605	221.6
15	じゃがいも(男爵)	2,981	686	0	0	290	2,262	6,219	1,165	187.8

※上記数値はJA兵庫西の旬彩蔵・野菜市の合計数量です。不足品目は店ごとに異なりますので、作付けにあたっては各旬彩蔵へのご相談をお願いします。

農業塾「アグリドリーム2020秋冬」について



2020年8月よりスタートしている農業塾「アグリドリーム2020秋冬」の研修圃場では、8月より順次定植したキャベツ、ブロッコリー、ハクサイの収穫期を迎えました。収穫後は、タマネギやホウレンソウなどを定植し、春収穫に向け栽培しています。

塾生からは、「初めての栽培で不安だったが、無事収穫まで栽培することができ、とても嬉しかった」「野菜作り以外にも農薬の詳しい使い方や、農業機械の操作方法も知ることができて良かった」など多数の喜びの声を頂くことができました。

農業塾では、野菜作りの基礎以外にも、農薬の安全な使い方、農業機械・小農具の正しい使い方、直売所出荷に向けた出荷方法など、生産から出荷までの体系的研修を通して、必要なスキルを身に付けることを中心に取り組んでいます。



の体系的研修を通して、必要なスキルを身に付けることを中心に取り組んでいます。

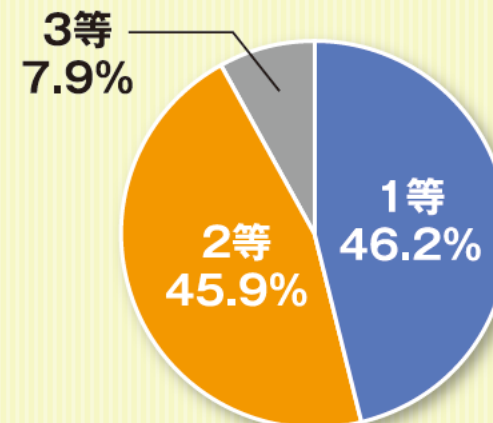
令和2年産米検査集荷状況(令和2年11月末現在)

① 検査実績について

JA兵庫西管内で130,923袋、昨年対比69.0%となっています。内訳として、一般米：71%、契約栽培米：17%、酒造好適米：11%、もち米：1%となっています。

② 等級比率について

下記図表のとおり、1等比率は46.2%で、昨年度(41.5%)をやや上回る結果となっています。なお、2等以下の主な格落ち要因は以下の通りです。



〈2等以下格落ち理由と要因〉

No.	理由	要因
1	心白・腹白	登熟期の高温障害
2	整粒不足	成熟期の高日照と水不足。登熟期の長雨による受粉障害
3	着色粒・斑点米	高温によるカメムシの異常発生と乳熟期～登熟期にかけて吸汁加害

